

EU 諸国はトランプの欧州離脱にどう対応

テリー・メイサン (Thierry Meyssan)

ボルテール・ネットワーク 2025 年 6 月 10 日

<https://www.voltairenet.org/article222411.html>

ハーグで開催される NATO 首脳会議は、EU の終焉を意味するかもしれない。アメリカ大統領は、EU の安全保障をもはや確保できないかもしれないと表明した。もしそうであれば、ヨーロッパ大陸の安定を再編成することが急務となる。ワシントンはすでにその解決策を持っている。現在のドイツを中心とした体制から、ポーランドを中心とした体制に置き換えるのだ。

6 月 24 日、オランダで NATO 首脳会議が開催される。ドナルド・トランプ米大統領は就任早々、各加盟国が年間 GDP の少なくとも 5% を国防に充てなければ、国防総省は欧州連合軍最高司令官 (SACEUR) としての役割を放棄すると同盟国に警告した。しかし、5 カ月前の時点では、ほとんどの国が GDP の 2.5% すら国防に充てていなかった。

加盟国がこのペースで国防予算を増やすのは不可能であることは明らかだ。そのため、トランプ大統領の発表は撤回できないように思える。国防総省はすでにヨーロッパからの撤退を計画していた。

ポーランドのアンドレイ・ドゥダ大統領は、アメリカ大統領に会うためにアポなしでワシントンに急行した。ドゥダ大統領は 2 月 22 日、保守政治行動会議 (CPAC) の傍らで、数分間会談することができた。彼は、ポーランドは数年前に軍隊の再編成を始めており、西ヨーロッパと中央ヨーロッパで最大の軍隊を持つことを目指しているが、いま以上に急ぐことはできないと主張した。ドナルド・トランプは融和的で、彼に猶予を与えた。米軍のポーランドからの撤退は最後になる。

パリとロンドンでは、国防相と参謀総長の会議が開かれた。アメリカの核の傘をフランスとイギリスの核の傘に置き換える可能性が話題になった。しかし、この提案には多くの障害があった。第一に、イギリスは原爆を保有しておらず、その施設は兄であるアメリカに依存している。第二に、原爆はひとつの政治的大国にしか依存できない。従って、自国を他国の保護下に置く国家は、それを信頼しなければならない。

結局、ワシントンが 5 日間すべての情報交換を停止したことで、こうした話し合いはすべて中断した。アメリカの力がなければ、自分たちの軍隊は何の価値もないということを、誰もが残酷な形ですぐに感じた。ウクライナの戦場では、EU の武器はもはや使いものにならなかった。敗北は間近だった。数日のうちに、欧州連合 (EU) の独立した防衛システムという神話は死んだ。誰もが (アメリカに) 詫びをいれた。

この興奮に続く首脳会談は、ドナルド・トランプが主導する交渉の特徴のひとつである。彼は交渉相手を追い込み、解決策を検討させ、自分なしでは機能しないことを残酷なまでに示し、最終的には自分の解決策を相手に押し付ける。

6 月初旬、英国は戦略防衛見直し 2025 を発表した。これは米国の保護に対する頌歌である。典型的な英国スタイルで、国防長官はこの文書に、原爆を搭載・発射できるロッキード・マーチン社製 F-35 ライトニング II 爆撃機の購入発表を付け加えた。確かに、これでも GDP の 5% の軍事費には及ばないが、アメリカの保護と引き換えにロンドンが締結できる有利な契約である。

ドナルド・トランプの要求に沿って、「ブカレスト 9 カ国」(バルト諸国、チェコ共和国、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア) と北欧諸国 (デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン) は先週、(リトアニアの首都) ヴィリニウスで会合を開いた。これら 14 カ国はすべて、2025 年までに GDP の 5% を国防費に充てることを約束した。そのため、彼らは約束を守り、時には警察支出を同じ項目に含めることで少しごまかした

これで、(6月末の)NATO ハーグ・サミットでドナルド・トランプの要求に応じない 17 の加盟国(米国を除く)が残った。米国はどう反応するだろうか？ トランプ大統領は、これら 17 カ国(ドイツ、フランス、イギリスの主要 3 カ国を含む)に対する保護義務を果たさなくなると考えるかもしれない。また、NATO 加盟国のうち少数派はすでに約束を果たしているため、猶予を与えると考えるかもしれない。

これが NATO のマーク・ルッテ事務総長の提案の主旨である。6月5日の国防相会合では、ルッテ事務総長は、全体として 5%の投資計画を、能力目標のための 3.5%の部分と、投資のための 1.5%の部分に分けることができると述べた。

ピート・ヘグセス米国防長官は、この解決策に満足したようだ。「私たちは、今月末にハーグで開催される NATO の 5%コミットメントについて、コンセンサスに近づいていると考えている」といった。彼はまた、次の SACEUR はベラルーシ出身のアレクサス・グリンケウィッチ將軍になると発表した。

しかし、スペインは依然として 5%目標を拒否している。マルガリータ・ロブレス国防相は 5月20日、公の場でこれを拒否した。

最初に考えられる答え、ゲームを変える答えについて考えてみよう。リスボン条約は、EU の安全保障は加盟国によってではなく、NATO によって保証されると定めている。EU はたちまち裸の経済大国になってしまう。

EU の専門家は、ドナルド・トランプがこの一步を踏み出すとは考えていない。彼らは、いずれにせよ、他の NATO 加盟国は、NATO サミットで 5%の要件が採用されなかったと主張できると主張している(2014 年のサミットでは、5%ではなく 3%しか求められていなかった)。トランプが純粋に口頭で定義したルールをあえて押しつけようとしなかったのは、NATO が国際法を尊重しているからではなく、アメリカ合州国が極東に展開すれば、ヨーロッパに安定した状況を残して、より信頼性が高まるからだ。

欧州委員会のウルズラ・フォン・デア・ライエン委員長は、5月29日にアーヘンで開催されたシャルルマーニュ賞授賞式で、EU の将来に対する彼女のビジョンを発表した。彼女によると、欧州連合は、すべてのバルカン諸国と東ヨーロッ

パ諸国(ロシアとベラルーシを除く)の統合を完了し、主要な経済大国になり、独自の安全を確保しなければならない。問題は、米国がもはや加盟国を保護していないのに、なぜ加盟国が残るのかということだ。ライエン委員長は厄介な質問に答えなかった。

5%の要件を満たしていない17カ国に対する米国の保護を撤回するという仮説に戻ろう。ドナルド・トランプは、EUはマーシャル・プランの秘密条項の下で形成されたが、今や彼はそれを否定する「アメリカ帝国」の一部であるとの信念を隠そうとしない。実際には、それはアメリカ合州国(彼は「アメリカ帝国」から独立していると考えている)に害を及ぼすだけだ。同様に、ドナルド・トランプは、「三つの海構想」、つまり、もはや再統一されたドイツ(したがってEU)ではなく、ポーランドとリトアニアをめぐるヨーロッパ大陸の再編成への支持を隠そうとしない。

この見方は、歴史に合致している。16世紀から18世紀にかけて、リトアニア大公国とポーランド王国は「両国の共和国」を構成した。この二国間国家は、ドイツ騎士団、ロシア帝国、オスマン帝国、スウェーデン帝国による攻撃から臣民を保護することに成功した。しかし、ポーランド貴族の一部からの反対と帝政との同盟により、二国王国は解体された。ただ戦間期に、ユゼフ・ピウスツキ将軍(ポーランド共和国大統領、後に首相)は、二国連邦の復活を構想した。これが「インターマリウム」、そして今の「3つの海構想」がある。この政府間組織には、オーストリア、ブルガリア、クロアチア、エストニア、ギリシャ、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、チェコ共和国の13カ国が含まれる。モルドバとウクライナは準加盟国だが、ポーランドがウクライナ北東部、つまりガリシア東部だけを望んでいることは明らかだ。2017年の「3つの海構想」サミットに参加したドナルド・トランプも、この組織がEUの後継者になることを望んでいることを隠していない。

取り残されることを望まないフランスは、ドイツ・フランス・ポーランド首脳会談である「ワイマール・トライアングル」を再開した。さらに、5月9日には、フランスのエマニュエル・マクロン大統領がポーランドのドナルド・トゥスク首相とナンシー条約に調印した。その目的は、両国間の軍事協力を強化することだ

が、それでも NATO の枠組みの中でのことだ。

もし EU が消滅すれば、EU の崩壊とともに多くの古い領土紛争が再浮上することになる。しかし、シャルルマーニュからアドルフ・ヒトラーまで、カール 5 世やナポレオンを含むヨーロッパ人が自分たちの間で平和を築くことはかつて一度もなかった。ローマ帝国と「アメリカ帝国」だけが彼らを争いから救った。
(了)